

広報 おばま



—精霊船流し—

お盆に帰ってきた先祖の霊を送り出す伝統行事「精霊船(しょうらいぶね)流し」が8月15日、甲ヶ崎区で行われました。午後5時過ぎ、数珠や線香を手にした区民らが見送る中、竹とわらで作られた長さ5㍍、幅1.5㍍の2隻の精霊船は、漁船に引かれて沖合へ出発しました。

今月の主な内容

おばま「水物語」	P 2
若狭マリンピア2006	P 6
情報ボックス	P 8
ご意見箱ほか	P 9
フォトニュース	P10
くらしの情報	P12
みんなのページ	P16



不動明王と奥田縄の滝



奥田縄の滝

おばま「水物語」

奥田縄の滝

小浜市指定文化財名勝の名瀑

小浜は、古代から宮廷に食材を供給する「御食国」として知られています。では、なぜ小浜の食材が宮廷へ供給されたのでしょうか。もちろん地理的なことでもあります。味がよかつたのも一つの要因だと思います。それには「水」の影響が大きかったのではないのでしょうか。おいしい魚は小浜の海が、栄養満点の野菜は川や地下水が育てたに違いありません。

今回は、おばま「水物語」

※今回は、おばま「水物語」

と題して、御食国若狭おばまの水にまつわる主なスポットを訪ねました。少しでも「涼」を感じていただけたら幸いです。そして、皆さんもぜひ一度足を運んでいただきたいと思っています。

※今回紹介するのは、いずれもお手軽なところばかりですが、道中滑りやすい箇所もあります。行かれる方はくれぐれもご注意ください。
また、熊対策として鈴やラジオなどを携帯していただくようお願いいたします

滝のそばにある不動明王の世話をしている緩詰行雄さん（72歳・奥田縄）にお話を伺いました。

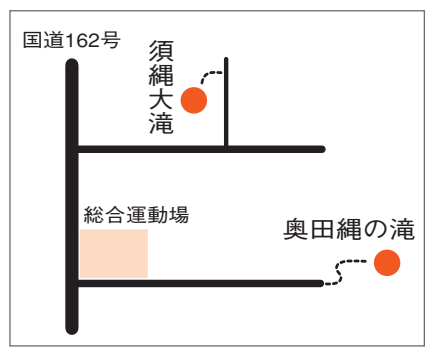
「二十年ほど前から、年に四回ほど掃除などをしていきます。この滝は観光客も来られるので、道の木を切ったり落ち葉を取り除いたり、また不動さんを磨いたりしています。最後にお神酒をお供えし、ろうそくを立てて「この地を守ってください」とお祈りしてくるんですよ」



「先日、駐車場で立ち止まっていた人

がいたので聞いてみると、「舞鶴から滝に来たんだが、熊が出そうなのでどうしようかと思っていた」と言うんですよ。いっしょに行つてあげたらすごく喜んでくれましたよ」

「区の皆さんも、道路整備や桜の植樹を行うなど地域全体で滝を守っています。より多くの人にこのすばらしい滝を知ってもらえたらうれしいですね」と緩詰さんは話してくれました。



国道162号を中名田方面へ行きます。総合運動場横から奥田縄区へ向かい車で走ること八分。集落を抜け、細い砂利道を行くと駐車場に到着します。

ここからは徒歩で滝を目指します。登り口に看板があり、それに従って山道を登ります。整備された道ですが、ところどころ歩きにくいなっているため注意が必要です。ゆっくりと登ること四分、「滝の下」と書かれた看板が現れました。



駐車場

少し降りると、奥田縄川が目前に。上流を眺めると滝が見えるとともに、水の音と涼しい風が暑さを忘れさせてくれます。



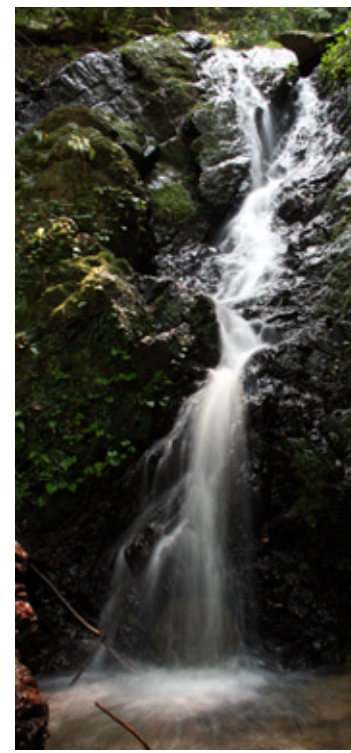
奥田縄川の清流



滝はすぐここです

須縄の滝

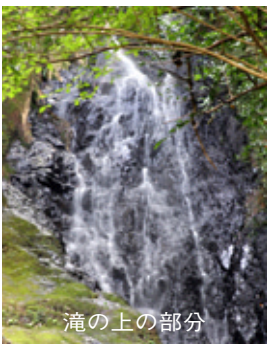
高さでは奥田縄の滝にも勝る



奥田縄の滝をあとにし、次は須縄大滝に向かいます。須縄区の奥へ向けて車を走らせると、一分半ほどで「登り口 須縄大滝」と書か

れた看板が目飛び込んできます。そこを左に曲がり、熊野神社を越えると狭い砂利道になります。登ること三分、「大滝」と書かれた看板が見えてくるので、その付近に車を駐車します。

ここからは徒歩で山道を登りますが、急な斜面もななく、また滑りやすくなったところもなく、五分ほどで到着しました。



滝の上の部分

須縄大滝にまつわる伝説
泰澄大師が諸国巡業のみぎり、この大滝周辺を見て那智山の景勝に異ならずと、滝のふもとで七日間の勤行をし十一面観音を彫りあげて、これを祀るための堂宇を建てられたという。
これが長滝寺の起源で、長い間信仰を集めたようだが、江戸時代初期には廃寺となり、観音堂は現在熊野神社の境内にあって、大智寺が管理している。
口名田郷土誌より

のが第一印象でした。ところが、右側に回り込んで見上げると上にも水が流れています（左の写真）。一本の滝ではなく、段になって流れているためすくには大きな滝とわかりませんでした。一枚の写真にすべてを写せないのが残念です。

病弱だった杉田玄白が養生したといわれる

小沢寺の不動の滝

宮川小学校から大谷区へ車を走らせること五分。大沢川沿いの車道を終点まで行きます。ちよつとしたスペースがあるので車はここに駐車します。

そこからは徒歩。清流を眺めながら小沢寺の参道を歩くと、三分ほどで「不動の滝」に到着します。

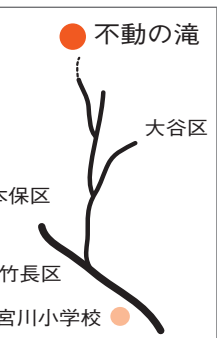
この不動の滝、水量は多くありませんが、「滝のきれいな水で体を清め、不動明王を拜む」といろいろな願いがかなう」という言い伝えがあります。



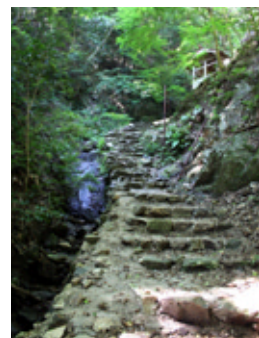
○印が高さ50cmの石像「水不動尊」



石段を登ったところが不動の滝です



(※) 人の駅：郷土が生んだ偉人などの旧跡に、その功績を記した説明板を設置し、地域住民の意識の高揚を図るとともに、観光客に歴史と文化のまち小浜をアピールするもの。市内に七十五カ所設置されています



百年の時を経てわき出る

雲城水



(上) 時には行列ができることもあります

(下) 何度も水禍に襲われたため水天宮を祭ってあります



小浜郵便局横の雲城公園に自噴する「雲城水」。昭和二十四年、旧雲城高等小学校(現雲浜小学校)の同窓生が母校をしのんで井戸を掘り、その水を雲城水と名付けたそうです。

雲城水は、小浜市と滋賀県高島市境の百里ヶ岳に降った雨が地中にしみこみ、百年かけて地表に出たものといわれています。水は地下三十メートルからわき出しており、水温は一年を通して

十三度。近所の人はもちろん、市外からも水をくみに来る人がいるほどです。

一番町振興組理事長の宇田川省二さんは、「雲城水はどこにも負けない水だと思っています。近年、水位の低下が心配されていますが、水のありがたみを忘れることなく、地域資源の一つとして大切にしていきたい」と話しています。

滝の水

町屋の飲料水や酒造りに利用された

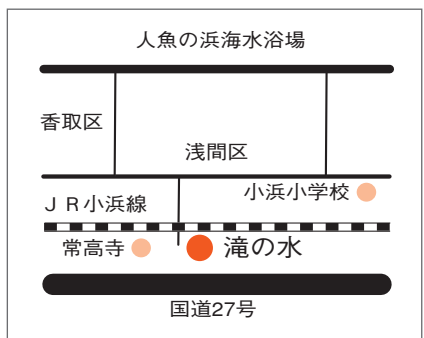
浅間区の旧丹後街道に面する「瀧天満宮」と書かれた鳥居をくぐり、参道を進むと右手にその瀧天満宮、直進してJR小浜線のガードをくぐると左手に「滝の水」があります。水の質は清く、以前は近くの町屋数百件の飲料水や酒造りに利用されていたそうです。

こんな話が残っています。「昔、京都・天竜寺の策彦という僧が日本からおみやげの種類を持って明(現在の中国)へ行った。その中に



(上) 岩の間からわき出る水を石造りの笕(かけい)を通して水盤へ導いています

(下) ペットボトルに水を入れる寺木さん



若狭の酒があった。長旅のち明へ渡りその酒を飲んでみると、少しも味が変わっていないのに驚き、これをたたくて「酒の記」を書いた。このため滝の水の名が高まり、「筆は三対、すずりは二対、水は若狭の滝の水」と手まり歌にも歌われたということです。夏は冷たく冬は暖かい滝の水は、今も年中絶えることなくわき出ています。

滝の水をよく利用する寺木賢司さん(和久里)は、

「五年ほど前、テレビで滝の水の存在を知り、週に一度は来るようになりました。この水はまろやかでもおいしいです。孫の粉ミルクにも使いましたし、ウイスキーの水割りなんか最高ですよ」と話してくれました。

津島名水

漁師さんが飲料水などに利用した



津島名水を試飲する吉岡さん

「津島名水」は、雲城水から二百ほど行ったところにあります。水量が豊富で、屋根も設置されるなどきちんと整備されています。吉岡正治さん(伏原)にお話を伺いました。

「いつもは雲城水を利用していますが、知人からこの津島名水のことを聞き、今日初めて来ました。雲城水と同じように飲みやすくおいしい水ですね」

「ペットボトル五本分持って帰るので飲み水はもちろん、コーヒーやお茶を入れたり、ごはんを炊いたりしますよ。やっぱり水道水

とは違いますね。これからは雲城水だけでなく、この津島名水もどんどん利用したいと思います」

